

# 「調理実態」比較

料理って楽しい



「普段の夕食を作る人」について、北京・上海では東京と比較して同居している割合が高いこともあり、母・父の頻度が高く、夕食作りに親世代が存在感を表していることがわかります。

親と同居している人に限ってみても、北京・上海では父親が夕食を作る人として東京の倍程度の回答があり、キッチンでの活躍が目立ちます。一方、東京では親と同居している場合、自分で調理する人が半数以下に減少しており、調理は親元から離れてから行うものである様子が見えてきます。

「普段の夕食作りに望ましい人」について、3都市とも、普段夕食作りを行っている人が、望ましい人として、TOP3にあがっていることから、おおむね望まれる人が行っている姿が見えてきます。しかし、東京の女性に限ると、自分が作るべきと考えている人が圧倒的に多いものの、配偶者へ望む割合が実際に作っている割合よりも高く、配偶者が調理をすることへの期待が見られました。

## 普段の夕食を作る人 〈全体〉

北京 (男) n=100 (女) n=100  
上海 (男) n=100 (女) n=100

\*各都市 [上帯：男性] [下帯：女性]

## 普段の夕食作りに望ましい人 〈全体〉

北京 (男) n=100 (女) n=100

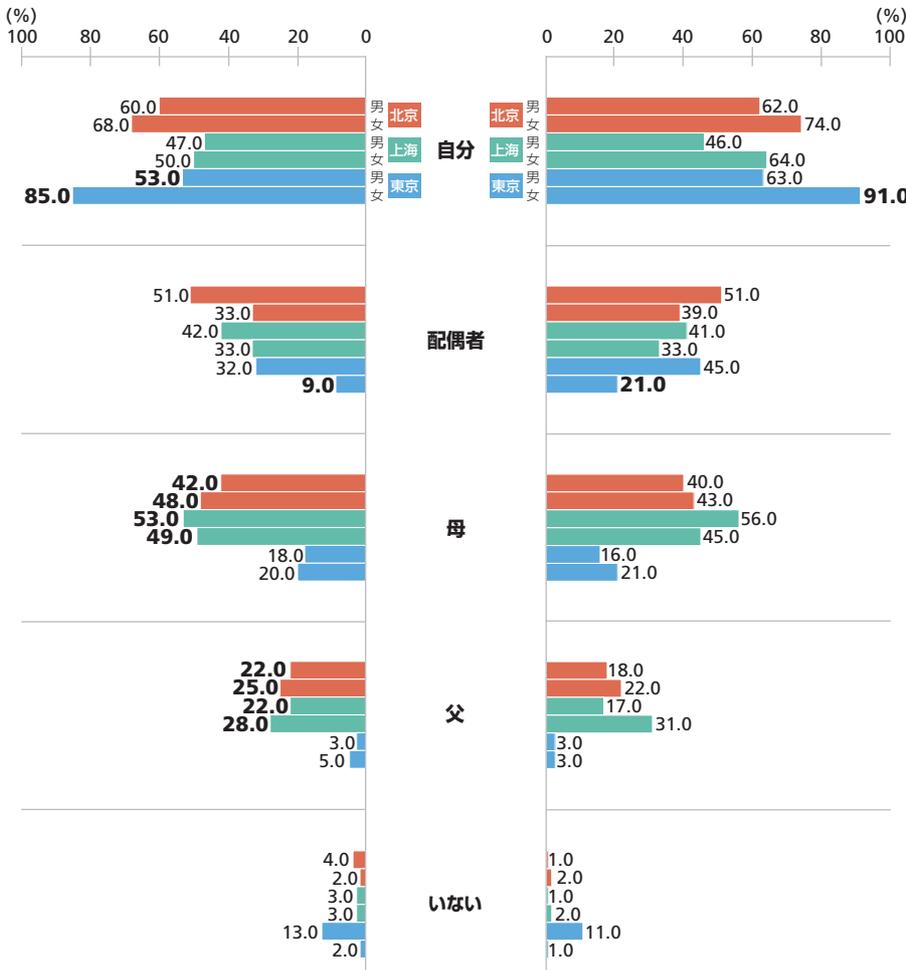
## 普段の夕食を作る人 〈父母と同居〉

北京 (男) n=36 (女) n=40  
上海 (男) n=37 (女) n=46

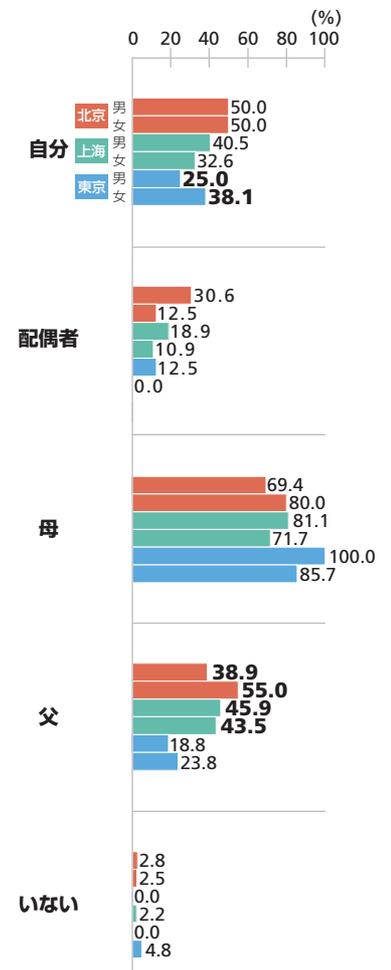
東京 (男) n=16 (女) n=21

\*各都市 [上帯：男性] [下帯：女性]

[上位3人まで回答]



[上位3人まで回答]



「夕食作りにかかる時間」は、東京では半数以上が40分以下で、ほとんど作らない人も約1割と短い傾向がありました。一方、1時間以上の人も多く、二極化が見られます。

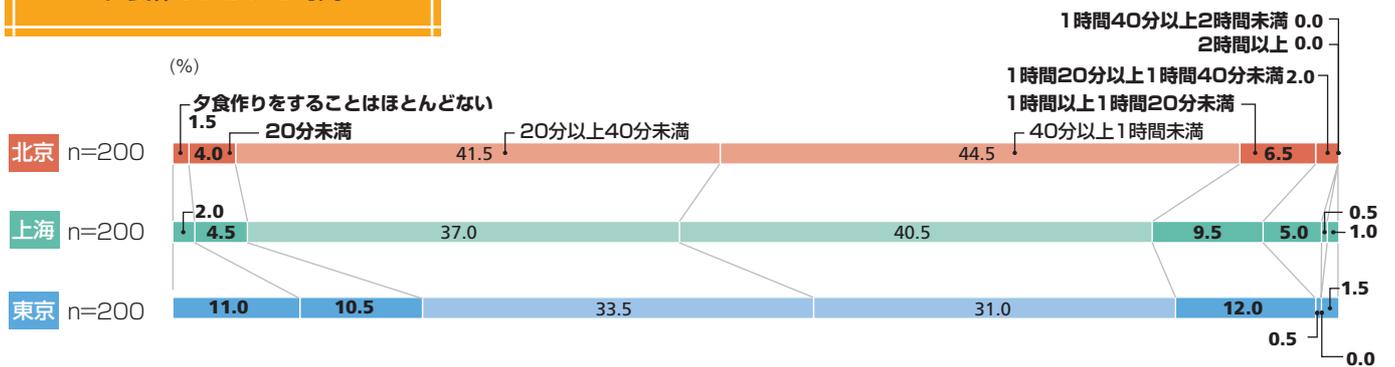
「料理に必要な技術の習得法」については、東京では本・雑誌や、インターネットをあげる人が多く、情報が豊富であることがうかがえました。しかし、調理技術がほとんど身につけていないという人が1割強も見られました。一方、北京・上海では、大人になってから親に教わる人が多く、料理が親から子へ受け継がれているという姿が見えてきます。

「料理することとは？」の問いに対して、北京・上海では楽しいことという答えが多く、男女ともに料理に対するポジティブな姿勢が見えてきました。特に、北京・上海では若干ですが女性と比較して男性の方が楽しいことととらえている人が多いのに対し、東京では男性の方が少なく（5位、7.0%）、意識面でも北京・上海の男性が積極的に調理を楽しむ姿勢が見えてきました。また、東京の女性は、義務／仕事、家族のためと食事作りに使命感を持っている様子が見られました。



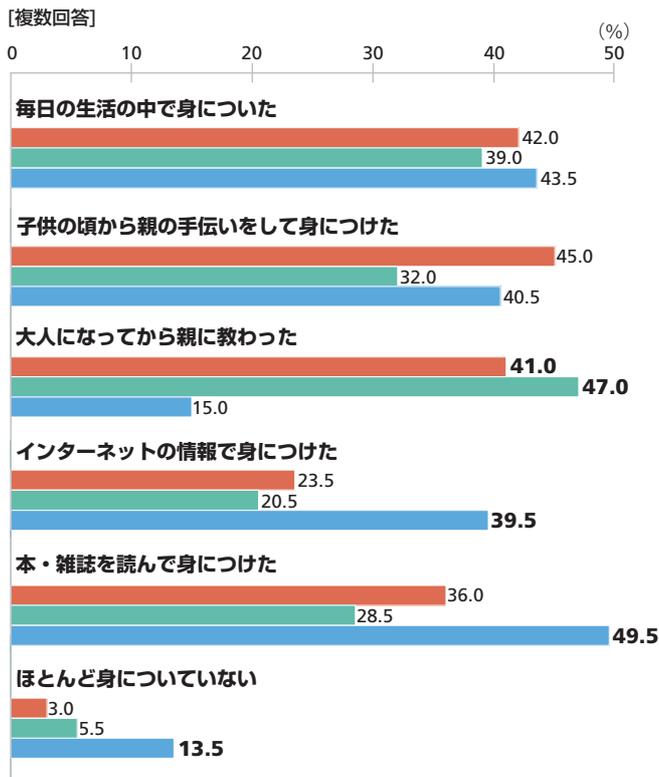
〈東京〉

### 夕食作りにかかる時間



### 料理に必要な技術の習得法

北京 n=200  
上海 n=200  
東京 n=200



### 私にとって料理することは〇〇です

[自由回答] (%)

	1位	2位	3位
北京 (男) n=100	楽しいこと 35.0	生活の一部 12.0	苦痛/負担 9.0
北京 (女) n=100	楽しいこと 31.0	生活の一部 13.0	義務/仕事 9.0
上海 (男) n=100	楽しいこと 28.0	生活の一部 14.0	喜び/幸せ 7.0 面倒/手間 7.0
上海 (女) n=100	楽しいこと 27.0	生活の一部 12.0	義務/仕事 8.0
東京 (男) n=100	食べるため (おいしく) 17.0	生活の一部 12.0	面倒/手間 9.0
東京 (女) n=100	義務/仕事 14.0	楽しいこと 12.0 家族のため 12.0	生活の一部 12.0